

## 週報①

### 広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌ウイルス	2021年												2022年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月 ~5日	6月 ~12日	6月 ~19日	6月 ~26日	7月 ~3日	7月 ~10日	7月 ~17日	7月 ~24日	7月 ~31日	8月 ~7日	8月 ~14日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	69	64	14	12	38	35	36	30	21	7	5	7	7
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	62	88	24	24	27	15	4	9	5	7	5	9 (12)	7
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	4	2	3	0	0
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	5	5	2	0	1	0	3	2	1	4	6	2 (4)	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	20	32	4	2	8	8	5	7	4	3	7	7	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	19	28	3	2	2	1	3	6	4	1	3	4 (5)	2
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	1	1	0	0	2	1	0	1	1	1	0	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	2	1	5
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

\* ( )は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

## 週報②

### 広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第32週(8月8日~8月14日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	1	結核	1			1				
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2					2		
四類	5	日本紅斑熱	3					1		2
		レジオネラ症	2		1			1		
五類	16	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1	1						
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1				1			
		百日咳	2		2					
		梅毒	12					7	1	4
新型コロナウイルス感染症	32,598	新型コロナウイルス感染症	32,598	4,025	2,222	2,962	512	15,669	2,493	4,715

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中市、湯田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

# 週報③

## 広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター 広島市感染症週報

令和4年第32週(8月8日～8月14日)

### 1 新型コロナウイルス感染症

第32週に15,669件の報告があり増加が続いています。現在、医療提供体制が極めて厳しい状況になっているため、8月12日に広島県は「医療非常事態警報」を発出しました。一人一人が、基本的な感染予防対策を徹底することが大切です。

【参考】新型コロナウイルス 感染拡大への対応(令和4年8月12日会見)(広島県)

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/2019-ncov/20220812.html>

### 2 腸管出血性大腸菌感染症

2件の報告がありました。今年の累計は17件(昨年同時期12件)と、多い状況が続いています。

### 3 日本紅斑熱

今年の累計は3件となりました。日本紅斑熱は、日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニに咬まれることで感染します。主な症状は、発熱、発しんで、ダニの刺し口がみられることもあります。山や草むらに入るときは、長袖、長ズボンを着るなど、肌を露出しないように注意しましょう。また、重症化すると死に至ることもあるので、マダニに咬まれた後に発熱等の症状がある場合は、直ちに医療機関を受診しましょう。

新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移(広島市)



### ■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィレン	インフルエンザ	-	-	0.16			小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.08		
	咽頭結膜熱	4	0.19	0.29				RSウイルス感染症	65	3.10	1.79		
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	0.10	0.93			眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03		
	感染性胃腸炎	31	1.48	2.69				流行性角結膜炎	2	0.25	0.64		
	水痘	-	-	0.24			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	49	2.33	1.99				無菌性髄膜炎	1	0.14	0.03		
	伝染性紅斑	-	-	0.06				マイコプラズマ肺炎	-	-	0.06		
	突発性発しん	9	0.43	0.41				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	27	1.29	0.67				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-		

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	34
小児科定点数	21
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

今週(第32週)は、お盆の休診の影響で、報告数が少なくなっている可能性があり、前週(第31週)と適正な比較ができないことから、発生記号は表示していません。

### ■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	17	20歳代・O157、40歳代・O26
4	日本紅斑熱	1	3	60歳代
4	レジオネラ症	1	24	70歳代
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	5	80歳代
5	梅毒	7	206	20歳代・2人、30歳代・2人、40歳代・1人、50歳代・2人